

# 遊工房アートスペース 年間報告書 2015



遊工房アートスペースでのアーティスト・イン・レジデンス事業は  
平成27年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業として採用されました。



# はじめに—2015 年を振り返って

## まえがき

アーティストの滞在制作の場と機会の事業を始めて四半世紀以上が過ぎた。AIR と展示を本格化してスタジオ遊工房から遊工房アートスペースと名称変更して 15 年が経過、多くの海外からの作家受入と共に、実験ギャラリーの展示を通じた作家活動の場と機会の提供を進め、国内作家の海外への派遣機会の創出に努めてきた。

遊工房での AIR 滞在作家 40 カ国 244 名、展示作家 200 余名、こちらの支援、推薦で海外へ派遣した作家は 100 人を超えた。(2015.12 未時点)

2015 年全体を振り返り、以下、進捗の確認と共に、今後の課題・反省としたい。

AIR 事業は、従来継続している海外作家の滞在制作・発表活動と並行して、当方の活動にご理解頂く美大教官との協力を背景に、Y-AIR (注 1) の試みを進めることが出来た。英国 London とのスタジオ交換による Y-AIR 試行、チェコ Pilsen 市のサマー・スクールへの受講及び作家の講師派遣、キャンプの仕組み理解と国内開催可能性検討のためのインターン派遣の実施などがある。個々の仕組み理解と持続可能なプログラムの実現に向け相互の検証も進めており、国内外の作家同志の交流やネットワーク作りを意識し心掛けていく。島国日本に籠ることのない国際的な視野を持った若い世代の育成を目的に、海外からの若手作家・研究者の招へいと合わせ、海外への派遣の伴う交換、Y-AIR の仕組みづくりにチャレンジしている。若手支援の強化のため AIR プログラムと並行した、国内作家向けの制作と成果発表の場と機会を提供するスタジオ・プログラムを再開した。

展示事業は、上記の背景から、3 月まで、在京若手作家ユニットの自主企画による展示発表を継続開催したが、4 月からは、制作スタジオであり発表の場とした Gallery スペースの運用実験を開始し、Y-AIR 試行として藝大油画グループの活動を実施。また、9 月からは、海外からの滞在作家のスタジオスペースとしても使用した。アートスペースの新たな活動形態の模索となった。

関連活動は、若手作家の国際交流活動を意図した欧州文化首都 (Kosice, Pilsen) との活動や作家交換の継続、韓国・清州の AIR と美大との交流 (展示会と検討会の開催) などを継続している。また、ネットワーク活動として、国際 AIR ネットワーク ResArtis と共に、2012 年設立以来進めている新たな枠組みのマイクロレジデンス (注 2) の顕在化に向けた Web サイトを一新した。また、「マイクロレジデンス・ネットワーク・フォーラム 2015」のさいたま市での開催 (さいたまトリエンナーレ 2016 のイベントとして、国際フォーラムを開催)、国内では、「AIR ネットワーク・ジャパン」の新たな活動体設立に参画。

### (注 1) Y-AIR : AIR for Young

AIR と美術大学が連携し若手アーティストの滞在制作体験機会を提供するもので、芸術家を目指す若手美大生の、職業として、社会人として、また、生活者としてのアーティストになる為の貴重な体験プログラムとなるもの。個々の AIR と美術大学間の共同による実践を通し、国際間の交換プログラムへの拡大、継続性ある仕組みの構築を目指すもの。

[AIR for Young]

A program realized through collaboration between AiR and art universities offering young artists opportunities the experience of carrying out creative activities on an artist residence program, contributing to their development as artists, as members of society, and as ordinary citizens. Through cooperation between individual AiR and art universities, the program aims to grow into a program for international exchange through the construction of a sustainable framework.

### (注 2) マイクロレジデンス

遊工房アートスペースが提唱した研究テーマの名称。多様な形で展開されている AIR の中で、特にアーティストが主導する小規模な AIR を「マイクロレジデンス」と命名し、2011 年から調査・研究に取り組み、様々な活動を展開してきた。2012 年よりネットワーク活動を開始している。

"Microresidence" a term purported by Youkobo Art Space. Microresidence has been identified as a small-scale, often artist-run form of residence and research into these spaces has been ongoing since 2011.

# 遊工房アートスペース 2015年 年間報告目次

- ・はじめに—2015年を振り返って
- ・遊工房アートスペースについて—ヴィジョン、ヴァリュー、ミッション
- ・寄稿—ヤーッコ・マッテイラ

## 1 主要事業

- 1-1 AIR プログラム：
- 1-2 ギャラリープログラム
- 1-3 イベント-アーティストトーク、クリティーク・セッションなど

## 2 関連活動

- 2-1 AIR 国際交流プログラム
- 2-2 派遣プログラム
- 2-3 ネットワーク活動
- 2-4 人材育成

## 3 調査・研究

- 3-1 Y-AIR
- 3-2 マイクロレジデンス寺子屋、AIRs—ほんとうの話
- 3-3 大学での講演等
- 3-4 AIR プログラムのアーカイブ整備と閲覧、コンサルタント

## 4 地域活動、コミュニティアート

- 4-1「アートキッズ」- 子供の斬新なアートワークショップ
- 4-2 野外アート展「トロールの森」14年目

- ・時系列活動記録
- ・索引：出版物、掲載記事など
- ・2015年活動一覧 – Overview

\* 本文中の記号について

**文** 文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

**M** マイクロレジデンス関連事業

**Y** Y-AIR(若手アーティスト育成・教育プログラム) 関連事業

**E** ECOC(欧州文化首都) 関連事業

# 遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。

遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。

真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

## ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

## バリュー（核となる価値観）

### ・開放性と交流：

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

### ・フレキシビリティ（柔軟性）：

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

### ・自律性：

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

## ミッション

真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。  
(AIR プログラム、ギャラリー・プログラム)

国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。  
(アート・イベント、トーク)

他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。  
(Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など)

・人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

遊工房アートスペースは以下のメンバーで運営されている任意団体です。  
共同代表：村田弘子、村田達彦  
スタッフ：針谷美香、椛田有理、ジェイミ・ハンフリーズ、辻真木子

# 寄稿 - ヤーッコ・マッティラ (2015年遊工房レジデンスアーティスト)

## Made in Japan 2.

2015年では、再び遊工房アートスペースで、日本で二回目となる滞在制作の機会が与えられた。2010年であった最初の滞在制作は、様々な意味で作家としての活動に励ましを与えたので、いつも戻って行きたいという気持ちがあった。その際は、私にとって遊工房しか選択肢がないと思った。

作家として多くの手法を使って制作しているが、日本では、紙に描かれた水彩とカラーインクの作品に集中することを決めた。スタジオと馴染みがあったため、今回滞っていた春の季節の場合、日中で空間の中の自然光がどう動くかを事前に知ることが有利だった。日本の夏の湿度がまだ強く感じられない時期だし、この季節に関してその他に、利点のリストが長い。全体的に言えば、インフルエンザの影響で何日間の仕事日が削られた理由等で、二回目の滞在制作が一回目より生産的であった。紙をボードに張ることだけでなく、絵の具の塗布等、紙の使用に関して幾つかの革新を起こすことが出来、復帰後も使用し続けている。フィンランドセンターと遊工房の支援を得て、現地で作られた作品のカタログが生産出来たことは素晴らしい。我々がデジタル時代に住んでいるにもかかわらず、具体的な印刷物が勝ち組だと思う。ちょうど昨日、ストックホルム、スウェーデンにある優れたギャラリーのスタッフに、三枚のカタログをあげた。

日本は島であり、過去では鎖国したこともあった。文化的に、非常に複雑な国であり、ヨーロッパと非常に異なる。今回の来日では、日本の歴史や行儀についてより深く理解していたので、前回の滞在より深く知ることが出来た。作品の本質は、文化的に縛られていることなく、普遍的なものを追求している。という意味で、今回の滞在がインスピレーションの源であったかという問いに対し、始めから視覚的にはほとんど差がなかったと感じる。インスピレーションとなったところが違うところがあった。例えば、出会った人の態度や献身、そして滞っている間に観た幾つかの芸術作品（工芸品も含めて）。850年以上前から、宇治にある世界の最も古い喫茶店が同じ場所でお茶を提供していることも、刺激的であった。

遊工房の最大の資産は、東京を訪ねている滞在アーティストに時間を寛大に与えて案内する遊工房のスタッフ、そして遊工房のネットワークに入っている人々である。彼らの御陰で、作家の滞在制作がより豊かなものとなっている。他の交流と同様に、文化交流も相互的である。幸せにも、何人かの日本友人がヘルシンキへ来て、私が日本で経験した歓待を、母国の来客に同じような経験を与えようとして嬉しかった。現在、作品を好んだ何人かのための展覧会を、ヨーロッパで計画しようと考えている。現時の日本は、発見されていない芸術的才能に満ちていると思う。それは、助成金に溢れ出ている西ヨーロッパと北欧のアートシーンと非常に違う話だ。日本で過ごした時間は、そのことを気付かせてくれて、フィンランドにあるアートの環境を有り難く思わせた。大事なことをひとつ言い残したが、一生の友達を作ることが出来た。それに勝つことはない！村田夫妻と手伝って下さった皆さんに感謝を込めて、深いお辞儀を致します。今後も、遊工房が多くの作家にも、私と与えられたような機会がありますようお願いしています！

ヤーッコ・マッティラ

# 1 主要事業

## 1-1 AIR プログラム

2014.06.02 - 2015.03.31	ジェイ・コムダ
2014.12.31 - 2015.04.30	OMNIADVERSUS (シルビア・ペレイラ)
2015.01.02 - 2015.01.31	シェリー・シモンズ
2015.02.01 - 2015.03.31	アニー・キヌネン
2015.04.01 - 2015.06.30	ヤーッコ・マッティラ
2015.04.04 - 2015.04.18	アリ・サールト／リッタ・パイヴァラネン
2015.05.01 - 2015.06.12	リディア・デイヴィス
2015.06.13 - 2015.07.24	クリス・アイフォールド
2015.07.01 - 2015.07.28	ヤンホン・チョン
2015.07.02 - 2015.07.10	ジュリア・ランカスター
2015.07.15 - 2015.07.21	ルイーザ・ミンキン
2015.08.02 - 2015.09.30	フローラ・マー
2015.08.03 - 2015.08.10	サムチルパク／フィチャンカン
2015.08.31 - 2015.09.30	ブリット・ソルト
2015.09.01 - 2015.09.30	ノリコ・ナカムラ
2015.10.01 - 2015.12.31	エディ・クレメンス
2015.10.01 - 2015.11.30	エリー・ワン
2015.10.14 - 2015.12.31	ミハヤル・ツァーブ

2014.06.02 - 2015.03.31

## ジェイ・コムダ [ポーランド] 文

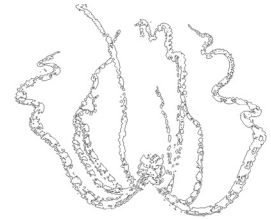
約 10 ヶ月にも及ぶ滞在を通して、彼は自らの足で住宅街や工業団地、路地のような、日常の生活域に赴き、現代的な都市生活を探求するために「人のいない街」というタイトルの写真作品シリーズを制作。閉鎖的な都市生活とのバランスとその現実との対面、それを受け入れると同時に、私たちの存在と存在の欠如の表現した。成果展には大型写真と写真集を制作し、展示会期中にアーティストトークも実施した。



2014.12.31 - 2015.04.30

## OMNIADVERSUS (シルビア・ペレイラ [ポルトガル]) 文

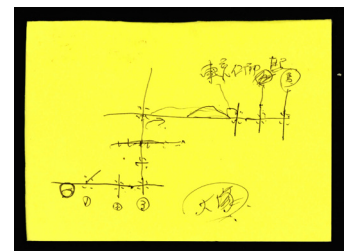
進行中のプロジェクトである OMNIADVERSUS では、様々なアーティストの人格を創り、各人格のアーティストは互いに独立し、自立的な方法で進化することでアイデンティティを形成する。今回の 4 ヶ月に及ぶ遊工房での滞在に於いては、日本人の人格「巡桜」なるアーティストを形成し、アイスランド人の人格を持つダー・タ・レイ、そして巡桜と 2 人格を個展形式、総括としてペレイラ氏によるグループ展形式にて開催した。



2015.01.02 - 2015.01.31

## シェリー・シモンズ [アメリカ]

シェリーは 2006 年に来日した際、地図を介したコミュニケーションの面白さを経験し、2 次元から 3 次元の関心を持つようになった。滞在中は 3 次元の空間を自身で 2 次元のスケッチにし、更に 3 次元の別のものへと次元と形を再構築して作品を制作した。滞在の最後には 1 日限りの Open Studi を開催し、フロアトークも実施した。



2015.02.01 - 2015.03.31

## アニー・キヌネン [フィンランド] 文 M

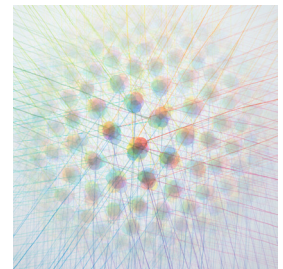
アニー・キヌネンは、瞬間の構成に興味があり、カメラを通して見えないものを可視化させている。現実に基づいたものではなく、表現力のあるモチーフを用いて、人間と自然との関係性、そしてアイデンティティの形成に対する環境の影響をテーマに扱っている。成果展では、写真と彫刻を展示した。



2015.04.01 - 2015.06.30

## ヤーッコ・マッティラ [フィンランド] 文 M

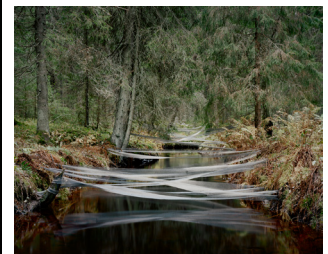
マッティラは、我々の感覚、錯覚をもたらす根源的な要素、また自然法則は最も重要なインスピレーションだと語り、無限大、狭小、広大さや時間といった宇宙を構成する原理に関心を寄せる。2 回目となる遊工房の滞在では、水彩と水性インキを使った平面作品を制作した。試行中の色を定着させる様々な方法を継続しながら、様々な日本製の筆、素材を用いて新しい制作に挑戦した。3 ヶ月の滞在制作の集大成としてオープンスタジオを開催。同展に併せてカタログを制作した。



2015.04.04 - 2015.04.18

## アリ・サールト / リッタ・パイヴァラネン [フィンランド]

アリ・サールトは、現在ヘルシンキを拠点に第一線で活動している写真家である。彼の切り取られたイメージは、何らかの「痕跡」、「不在性」を想起させ、記憶と時間の集積がつくり出す超越的な視座へと思考を導く。パイヴァラネンの写真作品は、観る者に想起を促す仕掛けで満ちている。今回の滞在においてはユミコチバアソシエイツにて作品発表を開催した。



2015.05.01 - 2015.06.12

## リディア・デイヴィス [イギリス] 文 Y M

デイヴィスの作品は、撮影画像という流動的な構造体に関係している。遊工房での滞在では日本特有で、流行りで、簡単に手に入り、そして今まで使用したことのない素材を探求した制作を行い、オープンスタジオを開催した。東京藝大の O Jun 研究室との関連は、日本の文脈、そして東京藝大を通じ多くのことに向き合い、議論させる機会を与えたい。

\* London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 として、遊工房アトスペースと東京藝大第 7 研究室 (OJUN 研) 及びロンドン芸術大学セントラル・セントマーティン校の Associate Studio Program (ASP) との覚書に基づいた試行として実施された。





2015.06.13 - 2015.07.24

## クリス・アイフォールド [イギリス] 文 Y M

アイフォールドは建築やありふれた金物類が、様々な必要性に駆られデザインした目的と異なる新しい役割を交渉する。遊工房での滞在では、新しい環境に没頭することで日本の意味あがりげな物や道具への探求を試み、またオープスタジオを開催した。東京藝大への訪問は新しい環境をどう解釈していくかという問いに対する試みに繋がったことだろう。

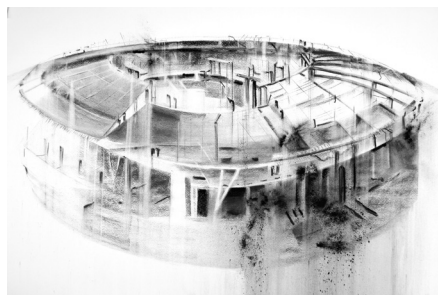
\* London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 として、遊工房アートスペースと東京藝大第7研究室 (OJUN 研) 及びロンドン芸術大学セントラル・セントマーティン校の Associate Studio Program (ASP) との覚書に基づいた試行として実施された。



2015.07.01 - 2015.07.28

## ヤンホン・チョン [シンガポール]

三次元空間に関心を寄せるチョンは、建築の美学についての追求を基に制作する。デジタル操作によって建築物の画像を編集し、それはドローイングとなり、秩序と無秩序が出現していく。遊工房での滞在では、東京の建築物の写真を集集し、構造の特定の部分を除去し、つなぎ合わせ、図面と紙自体の間の空間を探る。滞在中にオープスタジオを開催した。



2015.07.02 - 2015.07.10

## ジュリア・ランカスター [イギリス] 文 Y

ジュリア・ランカスターは、アクメ・スタジオズのレジデンシー&プロジェクト・マネージャとして長年活動を継続している。今回 Y-AIR 構想の一環として行われているロンドンと東京の交換プログラムのディスカッションとアクメ・スタジオズのプレゼンテーションのため招へいされた。



2015.07.15 - 2015.07.21

## ルイーザ・ミンキン [イギリス] 文 Y

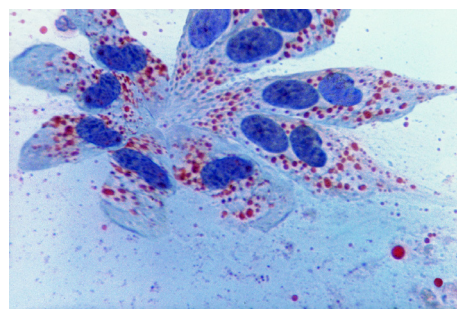
Y-AIR 構想の調査と会議 参加のため滞在。(CSM/ 美術コースのコースリーダー)



2015.08.02 - 2015.09.30

## フローラ・マー [ルクセンブルク] 文

フローラ・マーはルクセンブルク生まれ、在住のヴィジュアルアーティストである。ブリュッセルにて科学を勉強し、その後美術を学ぶ。今回の滞在では、氏の芸術実践において解決していないパラドックス「悪の美」を追求した。遊工房の建物が、かつて結核療養所であったということから、今回は基本的美的形態としてコッホ桿菌を焦点にあて、このテーマを中心にスタジオを研究所として使用し、様々なドローイングや墨絵を精力的に制作した。滞在中に制作した新作展を遊工房とルクセンブルク大使館にて発表した。



2015.08.03 - 2015.08.10

## サムチルパク/ファイチャンカン [韓国] M

「PUBLIC AiR(韓国・清州市)と遊工房アートスペースによる日韓交流展」に参加。「日韓交流展・4人のアーティストたち」Public AIR のソンヨンパク & 本島真由美と南ソウル大学のサムチルパク & ファイチャンカンによる絵画、陶芸、ガラス作品の展示と Y-AIR を考える寺子屋に参加した。



2015.08.31 - 2015.09.30

## ブリット・ソルト 【オーストラリア】 文

線・形・空間といった要素が織り込まれる実験を起こし続けているブリット・ソルトは、東京の一時的な環境と革新的な折り紙を通し、一時性と同時に個体である環境を作り未知なる世界の複雑さを示唆する。かつては個体の「場」に対し、どう位置を向け変えて見当を見つけるか鑑賞者に問いかける。



2015.09.01 - 2015.09.30

## ノリコ・ナカムラ 【日本（在豪）】

人間と物質世界の間に存在する関係を探求するために、材料そのものが持つ変形の可能性を利用し実験するナカムラは、日本語が日常にどう影響をしているのかに焦点をあてた新しい作品を制作した。言語とインスタレーションの対話について探求し、日本に生まれ、凡そ10年間海外に住んでいる人間として、今回のレジデンスは自身の文化的背景を身近に取り組む一歩となった。



2015.10.01 - 2015.12.31

## エディ・クレメンズ 【ニュージーランド】 文

エディ・クレメンズは、共有されている文化の言語である「シネマ」の力を用いながら、その言語を揺さぶり、それが持つ表面性の差解釈を提供する。遊工房での3ヶ月の滞在では、偶々発見した吊るされた大きなピンクの象、光に照らされたキーウィ（ニュージーランドの鳥）、AUCKLANDの文字に出会った。クレメンズ氏はこの予想していなかったレアな光景を「unboxes」（開封 - ネット上で流行っている「開けてみた」の意）と再解釈することにしたのである。



2015.10.01 - 2015.11.30

## エリー・ワン 【香港】 文

香港出身のエリー氏の作品では、「空間」が不可欠な要素である。遊工房では、環境とコミュニティとの関係をモチーフに作品を展開した。新世代の日本人にとって、伝統と現代の関係が最も重要な課題であるとし、同じ「アジア」でありながら、香港と日本と比較して日本人は地方伝統に対する尊敬を持つと考えるエリー氏は、日本の伝統的な文化や芸術手法を体験しながら香港との文化的差異を滞在期間中リサーチした。滞在中に制作した作品は野外展「トロールの森 2015」にて、オープンスタジオを開催した。



2015.10.14 - 2015.12.31

## ミハル・ツァーブ 【チェコ】 文 E

ミハル・ツァーブ（1980年生まれ）は、プラハ、チェコを拠点に活動しているマルチメディア・アーティストである。彼の芸術実践は、ノイズ型即興音楽、プログラミング、特定のオーディオヴィジュアル楽器の制作を中心としている。遊工房で滞在中、オーディオシステムを制作。第一の段階として、楽器の開発、基本的ソフトウェアのプログラミング、そしてインターフェースを制作し、第二段階では、開発した楽器のための作曲をした。滞在中女子美術大学と関連したオープン・ソース・ワークショップ、日本の作家とコラボレートしたオープンスタジオ（11月21日～11月23日 / 12月11日～12月20日）、ライブを開催した。



## 1-2 ギャラリープログラム

2015.01.07 - 2015.01.25	<b>桑山彰彦 (企画)、岸本真之、ヒグラシユウイチ、松本涼 [日本]</b> 第9回凹地企画展「ドニゴール：彫刻、時間、物質について」
2015.01.30	<b>シェリー・シモンズ [アメリカ]</b> Open Studio by Sheri Simons
2015.01.30 - 2015.02.01	<b>ダー・タ・レイ [アイスランド]</b> DENATURED_toyo series
2015.02.18 - 2015.03.01	<b>ジェイ・コムダ [ポーランド]</b> No Purpose
2015.03.11 - 2015.03.29	<b>安田豊 [日本]</b> 第10回凹地企画展「安田豊個展 すべてyとyとyのせいだ。」
2015.03.14 - 2015.03.29	<b>アニー・キヌネン [フィンランド]</b> ODD FAMILIAR 奇妙な平凡
2015.04.22 - 2015.04.26	<b>百瀬陽子   クロエ・ジャフェ [日本・フランス]</b> Meeting Tree
2015.04.11 - 2015.04.12	<b>Jun O 巡桜 [日本]</b> Tukap
2015.04.24 - 2015.04.26	<b>シルビア・ペレイラ [ポルトガル]</b> 0m.0[omniadversus momentum 0] artistic research by Silvia Pereira
2015.06.17 - 2015.06.28	<b>ヤーッコ・マッティラ [フィンランド]</b> MADE IN JAPAN
2015.06.03 - 2015.06.07	<b>リディア・デイヴィス [イギリス]</b> 'SO_SO'
2015.05.01 - 2015.07.12	<b>東京藝術大学油画第7研究室展 vol.6 [日本]</b> 太郎かアリスの liquid
2015.07.08 - 2015.07.12	<b>クリス・アイフォールド [英国]</b> Turning Circles 旋回圏
2015.07.17 - 2015.07.24	<b>東京藝術大学油画第7研究室展 [日本]</b> 太郎かアリス OneBox and OnePiece
2015.07.18 - 2015.07.19	<b>ヤンホン・チョン [シンガポール]</b> オープン・スタジオ
2015.08.05 - 2015.08.09	<b>ソンヨンパク 本島真由美 [韓国 日本]</b> Public Air-Tokyo Exhibition
2015.08.05 - 2015.08.09	<b>サムチルパク フィチャンカン [韓国]</b> The Art Play into the Fantasy
2015.09.09 - 2015.09.12	<b>フローラ・マー Flora Mar [ルクセンブルク]</b> OPEN STUDIO by Flora Mar
2015.09.25 - 2015.09.27	<b>ノリコナカムラ [日本 在豪在]</b> In-between
2015.09.25 - 2015.09.27	<b>ブリット・ソルト [オーストラリア]</b> Unknown Complexity
2015.11.21 - 2015.11.26	<b>エリー・ワン [香港]</b> (un) seen
2015.11.21 - 2015.11.23	<b>エディー・クレメンス [ニュージーランド]</b> Auckland Jean's Shop (Open Studio)
2015.11.21 - 2015.11.23	<b>ミハヤル・ツァーブ [チェコ]</b> シグナルズ - signals
2015.12.11 - 2015.12.20	<b>エディー・クレメンス [ニュージーランド]</b> Auckland Jean's Shop
2015.12.11 - 2015.12.20	<b>ミハヤル・ツァーブ [チェコ]</b> Poeme electronique-pourle monde
2015.12.09 - 2015.12.20	<b>MIEZARUTE [イギリス   日本]</b> SAYONARA   サヨナラ

## 桑山彰彦 (企画)、岸本真之、ヒグラシユウイチ、松本涼 [日本]

2015.01.07 - 2015.01.25

第9回凹地企画展「ドニゴール：彫刻、時間、物質について」

凹地は、2014年4月から遊工房アートスペースで活動しているアーティスト・ユニットである。タイトルのドニゴールは今回の展示の企画者である桑山が以前訪れたアイルランド北西部の地名。その峻厳な自然と風土から彫刻における物質観のヒントを得、時と共に風化していく物質の宿命と彫刻の有り様を重ねた世界観に強く結びついている作家を紹介する。

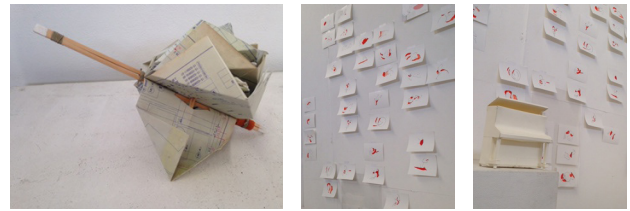


## シェリー・シモンズ [アメリカ]

2015.01.30

Open Studio by Sheri Simons

1ヶ月の滞在を終え、1日限りのOpen Studioを開催。スタジオから外の様子を写し取ったドローイングや、実際に街でフロッターージュをしたものなど、空間情報を2次元化、また彫刻に再構成するなど、空間を翻訳するような作品を展示。



## ダー・タ・レイ [アイスランド] 文

2015.01.30 - 2015.02.01

DENATURED\_tokyo series

作品は、2013年にアイスランドで開催したプロジェクトの続編として、大都会での建設中の類似素材が合い反する機能に使われ並行的に、自然に変化していく過程を観察する。



## ジェイ・コムダ [ポーランド] 文

2015.02.18 - 2015.03.01

No Purpose

都会の環境による絶え間なく続く覚醒は、生きていることを喚起させるが、疲労、無気力、孤独感が残る。都市に居住することは、自己を犠牲していることと言う、彼は、「平凡」や「退屈」といったものに焦点をあて、写真という媒体を通して、現代の都市とそれらの居住者を熟考している。

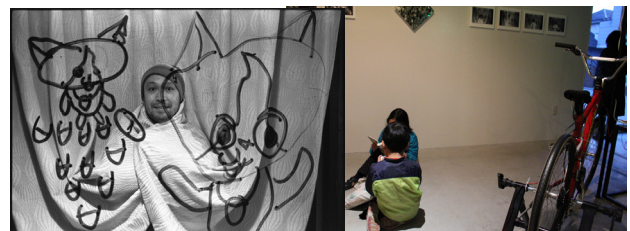


## 安田豊 [日本]

2015.03.11 - 2015.03.29

第10回凹地企画展「安田豊個展 すべてyとyとyのせいだ。」

凹地は、2014年4月から遊工房アートスペースで活動しているアーティスト・ユニットである。年度最後に、安田7年ぶりの3回目の個展を企画。主に平面作品(版画他)を制作し、近年は、フィルムカメラで写真を撮り、4年前の震災後から家族の成長や他愛無い日常を題材に作品化している。写真と立体作品を展示。



## アニー・キヌネン[フィンランド] 文 M

2015.03.14 - 2015.03.29

ODD FAMILIAR 奇妙な平凡

2カ月の滞在で、初来日での制作は、異なる文化的環境が内面に起す力を探求し物語を作った。身体的なパフォーマンスを用いたり、日常の食材や雑貨を素材とした。異なる伝統や習慣の合流点を追求し、部外者の感覚と、同時に環境に溶け込もうとする感覚を合流させた。



## 百瀬陽子 | クロエ・ジャフェ[日本・フランス]

2015.04.22 - 2015.04.26

Meeting Tree

画家・百瀬陽子とフランス人写真家・クロエ・ジャフェによる写真と絵画のコラボレーション作品。

違う言語と環境で生きてきた同世代の女性二人が出会い、感覚を共有し、感情を分け合い、交りあう瞬間に立ち会う二人展。



## Jun O 巡桜[日本] 文

2015.04.11 - 2015.04.12

Tukap

意味論的自己の皮膚として、「立体物・衣装」が身振りによって様式化された意味が出現し、慧眼の儀式に変質させる。アイヌ語で「ふたつの皮膚」の意をもつ「Tukap」は、伝統的な古の儀式を再現し、衣装の根本を見せる。原始アニミズムの迫力、国家の象徴的要素を含む日本の衣服の崇高と特徴的背景にインスパイアされていた。



## シルビア・ペレイラ[ポルトガル] 文

2015.04.24 - 2015.04.26

0m.0[omniadversus momentum 0] artistic research by Silvia Pereira

『OMNIADVERSUS 主体の自己実現』とは、アイデンティティの形成、芸術的な値としての、主体と客体の総合依存、主体そのものの状態を芸術的な拠点から展開する進行中のプロジェクトである。様々なアーティストの人格を作り上げ、異なる探索を展開し、パフォーマンスや、独立した作品集を作り、各人格のアイデンティティが形成される。「自己」の形成に新たな知見を提供し、ある文化的環境の中で、「自己」自体をアート作品として「Living-as-form」(生きることとしての形体)として考え、「零の存在」が良好なアートの媒体として可能性を明かしている。

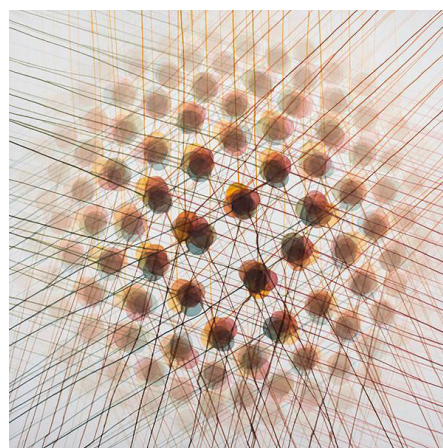


## ヤーッコ・マッティラ[フィンランド] 文 M

2015.06.17 - 2015.06.28

MADE IN JAPAN

我々の感覚や幻想に基づいた根本的な要素に関心があり、自然から大切なインスピレーションを受け、無限、時間といった、宇宙的な原理にも興味を持ち、彫刻、版画、インスタレーションや家具もつくる。滞在中は、水彩画と水性インキを利用し、注射器等の使用も含めた、最近の手法を継続して、様々な日本の紙や筆を試した。3ヶ月の滞在の最後にオープスタジオを開催。日本のデザイン会社「Scope」とのコラボレーションにも取り組んだ。



## Lydia Davies [イギリス] 文 Y M

2015.06.03 - 2015.06.07

'SO\_SO'

デイヴィスの作品は、撮影画像という流動的な構造体に関係している。遊工房での滞在では日本特有で、流行りで、簡単に手に入り、そして今まで使用したことのない素材を探求した制作を行い、オープンスタジオを開催した。東京藝大のO Jun 研究室との関連は、日本の文脈、そして東京藝大を通じ多くのことに向き合い、議論させる機会を与えたい。

\* London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 として、遊工房アートスペースと東京藝大第7研究室 (OJUN 研) 及びロンドン芸術大学セントラル・セントマーティン校の Associate Studio Program (ASP) との覚書に基づいた試行として実施された。



## O JUN、中山 開、佐々木 美穂子、Sabrina Horak、呉梨沙、衣 真一郎、小津 航、菅 雄嗣、須永 有、Najmun Nahar、赤池 龍星、新津保 建秀、星野 明日香、Jaeger Ernst Yohji、Erik Bauer、東山詩織、Christopher Ifould、Lydia Davies、陳璐 [多国籍]

2015.05.01 - 2015.07.12

企画 1 「太郎かアリスの liquid」東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画第7研究室展 vol. 6

London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 として、遊工房アートスペースと東京藝大第7研究室 (OJUN 研) 及びロンドン芸術大学セントラル・セントマーティン校の Associate Studio Program (ASP) との覚書に基づき試行を実施した。季節や天候など環境の変化に応じ、時間や場所、スケールが限定され一時的に出現する川や湖、は、一帯の風景を束の間変え、風景の記憶や印象も変え、生をも明滅させる。このような流動的な変化を、複数のアーティストが、2ヶ月遊工房に出現させた。



## クリス・アイフォールド [英国] 文 Y M

2015.07.08 - 2015.07.12

Turning Circles 旋回圏

アイフォールドは建築やありふれた金物類が、様々な必要性に駆られデザインした目的と異なる新しい役割を交渉する。遊工房での滞在では、新しい環境に没頭することで日本の意味ありげな物や道具への探求を試み、またオープンスタジオを開催した。東京藝大への訪問は新しい環境をどう解釈していくかという問いに対する試みに繋がったことだろう。

\* London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015 として、遊工房アートスペースと東京藝大第7研究室 (OJUN 研) 及びロンドン芸術大学セントラル・セントマーティン校の Associate Studio Program (ASP) との覚書に基づいた試行として実施された。



## O JUN、中山 開、佐々木 美穂子、Sabrina Horak、呉梨沙、衣 真一郎、小津 航、菅 雄嗣、須永 有、Najmun Nahar、赤池 龍星、新津保 建秀、星野 明日香、Jaeger Ernst Yohji、Erik Bauer、東山詩織、Christopher Ifould、Lydia Davies、陳璐 [多国籍]

2015.07.17 - 2015.07.24

「太郎かアリス One Box and One Piece」東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 油画第7研究室展

19名のアーティストがドローイングを納めるタトウ箱を作成し、所有という概念を越えた“記念”として、参加アーティスト全員のドローイングを持つ。各アーティストのドローイングの内一点は芸大立体工房、Yuga Gallery にて展示し、タトウ箱は遊工房 Gallery にて展示。ドローイングを巡る折々の様態を二カ所同時に開催した。ゲストとしてロンドンからリディア・デイビスとクリス・アイフォードが参加。



## ヤンホン・チョン [シンガポール]

2015.07.18 - 2015.07.19

オープン・スタジオ

東京の建築物の写真を収集し、(例えば、国立代々木競技場、21-21 DESIGN SIGHT、明治神宮等。)画面から、これらの構造の特定の部分を除去し、残りの部分をつなぎ合わせ、図面と紙自体の間の空間を探る。それらの建築物の複写を用いて、元の建築形態が判別できなくなるまでの実験を行った。



## ソンヨンパク 本島真由美 [韓国 日本] M

2015.08.05 - 2015.08.09

Public Air-Tokyo Exhibition

韓国のチョンジュ市を拠点に活動している文化非営利団体 Public Air が、アーティスト・イン・レジデンス・プログラムの一環として行った展覧会。2015 年度レジデンスアーティスト、ソンヨンパクと本島真由美の二人展。



## サムチルパク フィチャンカン [韓国] M

2015.08.05 - 2015.08.09

The Art Play into the Fantasy

ナムソウル大学芸術学部陶芸科教授サムチルパクと、ガラス造形科教授フィチャンカンが、"The Art Play into the Fantasy" を共通のテーマに、各自、異なる材料と独特な技法を用い、それぞれ6、7点の作品を展示。サムチルパクは、"The Rhythm of the Nature" というタイトルの作品を、フィチャンカンは、"Nostalgia?" というタイトルのガラス造形作品を展示。



## フローラ・マー Flora Mar [ルクセンブルク] 文

2015.09.09 - 2015.09.12

OPEN STUDIO by Flora Mar

今回の滞在では、これまで展開してきた連続シリーズの1つ「LES FLEURS DU MAL」に焦点をあて、パラドックス「悪の美」を追求、初来日での滞在により、最近の作品テーマ "侘び・寂" や "タントラ教" の追求をさらに進めた。「精美」に対する西洋の規範、や道徳的な境界を捨て、遊工房の建物が、かつて結核療養所であったことから、コッホ桿菌をテーマに、スタジオを研究所と見立て、ドローイングや墨絵を制作した。2015年9月17日(木) 9月29日にはルクセンブルク大公国大使館にて展示。



## ノリコナカムラ [日本 豪在]

2015.09.25 - 2015.09.27

In-between

人間と物質の関係を探求し、材料そのものが持つ変形の可能性を実験している。滞在中は、日本に生まれ、十数年海外居住している者として、自身の文化的背景を身近に取り組む一歩として、言語とインスタレーションの対話をテーマに小学生とのコラボレーションによる作品を作った。

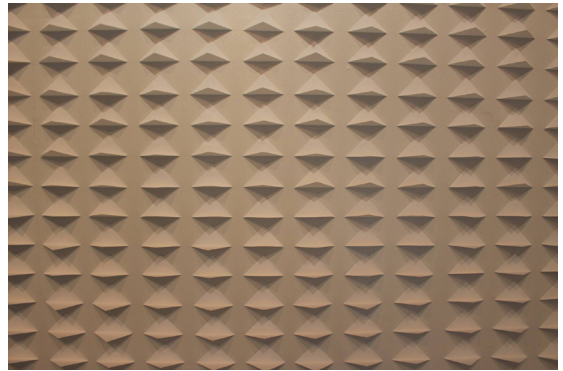


## ブリット・ソルト [オーストラリア]

2015.09.25 - 2015.09.27

Unknown Complexty

滞在中は、折り紙で実験を試み、紙を折る工程や材質を基にリサーチを発展させて、折り紙による建築空間の解釈を熟考。流動的など固定した環境という複雑な作品をつくり、鑑賞する位置と作品の関係を考察させた。



## エリー・ワン [香港] 文

2015.11.21 - 2015.11.26

(un) seen

葉や植物をテーマにしたドローイングと絵画シリーズが展示。秋という季節がインスピレーションとなり、天候の変化によって変わる景色や、落ち葉を観察し、生の終わり、死に至ったもの、活力を失ったものの形体を認識し、黙想を通して和紙に鉛筆で描いた枯葉の「拓本」を作った。枯葉は、滞在中、スタジオの前からランダムに拾ったものである。植物の生長の過程を記録した小作品絵画シリーズも同時に展示した。



## エディー・クレメンス [ニュージーランド] 文

2015.11.21 - 2015.11.23

Auckland Jean's Shop

3ヶ月の滞在の初期に最寄り駅（西荻窪）に、大きな吊るされたピンクの象をを発見し、同時に、キーウィ（ニュージーランドの鳥）と AUCKLAND の文字看板に出会った。この予想していなかったレアな光景を「unboxes」（開封 - ネット上で流行っている「開けてみた」の意）と再解釈し、「Auckland Jean's Shop」とタイトルの展示をした。



## ミハル・ツァーブ [チェコ] 文 E

2015.11.21 - 2015.11.23

シグナルズ - signals

様々な信号が飛び回る、ラジオ信号の戦場として空間をつくり、来訪者が自分でラジオを持ち、波長調整し作曲家となる。

同じ周波数に合わせた周波数無線送信機が展示空間に溢れ出、空間を歩き回りながら異なる音が自分のラジオから聞こえてくる。歩くだけで、様々な「ラジオ局」に合わせることが出来るーラジオを持ちながら歩くことが作曲であり、展示空間が楽器や様々な音の可能性を持った楽譜である。

※録音協力イトー・ターリ

※会場には日本が誇るラジオアーティスト、粉川哲夫さんデザインのFMトランスミッターも展示。





## エディー・クレメンス [ニュージーランド] 文

2015.12.11 - 2015.12.20

Auckland Jean's Shop

Elly Wan | Eddie Clemens | Michal Cab [中国 | ニュージーランド | チェコ] との合同オープンスタジオとして、野外アート展トロールの森 2015 参加の「トロールの森 at Youkobo Art Space」時の発展形の展示。

3 ヶ月の滞在の初期に最寄り駅（西荻窪）に、大きな吊るされたピンクの象をを発見し、同時に、キーウィ（ニュージーランドの鳥）と AUCKLAND の文字看板に出会った。この予想していなかったレアな光景を「unboxes」（開封 - ネット上で流行っている "開けてみた" の意）と再解釈し、「Auckland Jean's Shop」とタイトルの展示をした。



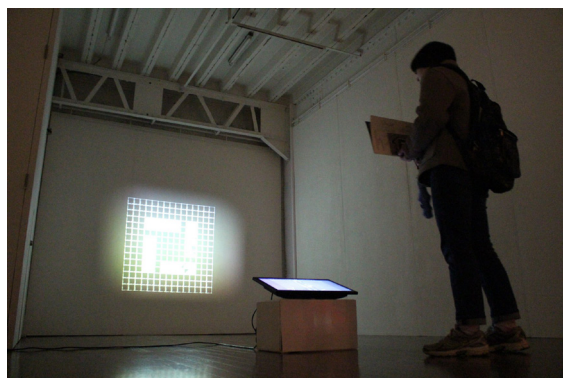
## ミハル・ツァーブ [チェコ] 文 E

2015.12.11 - 2015.12.20

Poeme electronique-pourle monde

プラハ、チェコを拠点に活動し、マルチメディア・アーティストとして、ノイズ型即興音楽、プログラミング、特定のオーディオビジュアル楽器の制作を中心に行う。その他、オープン・ソース・テクノロジーを使用しながら、基本的なツールとしての「Pure Data」というプログラミング言語の一つを様々な芸術的文脈でどう使われるかの研究で博士号を獲得。演劇やビジュアル・アーツのジャンルとのコラボレーションもおこなう。ライブコーディング・バンド「k-o-l-e-k-t-i-v.github.io」のメンバー。

\*欧州文化首都 2015 Pilsen 市 OPEN A.i.R. とのアーティストエクステンジブプログラムとして実施



## MIEZARUTE [イギリス | 日本]

2015.12.09 - 2015.12.20

SAYONARA | サヨナラ

MIEZARUTE（見えざる手）は、2014年に結成したイギリス人アーティストのアダムスミスと高橋佳子のアーティストユニット。ニヒリズムとアナーキズムとDIY精神の間あたりで、ユーモアと愛嬌を大切にしながら、様々なメディアで活動している。MIEZARUTEによる初の個展。

街で見かける廃退の美や、日本が持つ可笑しみやその特異性を、写真、映像、インスタレーションで表現する。



# 1-3 イベント - アーティストトーク、クリティーク・セッション

## アーティスト・トーク

2015. 01. 14 オープニング・トーク

凹地 (桑山彰彦、安田豊、平丸陽子、村上郁) 上野梓、市川平、町野三佐紀、ヒグラシユウイチ

2015.01.30 シェリー・シモンズ [アメリカ] フロアー・トーク

Open Studio by Sheri Simons

2015. 01.30 ダー・タ・レイ [アイスランド] フロアー・トーク

DENATURES\_tokyo series (2015.01.30 - 2015.02.01)

2015.02.28 ジェイ・コムダ [ポーランド]

No Purpose (2015.02.18 - 2015.03.01) 展示 アーティスト・トーク

2015. 03.20 アニー・キヌネン [フィンランド]

ODD FAMILIAR 奇妙な平凡 (2015.03.14 - 2015.03.29) 展示でのフロアー・トーク

2015. 06. 05 Lydia Davies [イギリス]

so so (2015.06.03 - 2015.06.07) 展示でのフロアー・トーク

2015.07.10 クリス・アイフォールド [英国]

Turning Circles 旋回圏 (2015.07.08 - 2015.07.12) 展示でのフロアー・トーク

2015. 09. 17 フローラ・マール (ルクセンブルク)

ルクセンブルク大使館での展覧会 (2015年9月17日(木) - 9月29日(火)) のオープニング・トーク

2015. 11. 21 ミハヤル・ツァーブ [チェコ]

シグナルズ (2015.11.21 - 2015.11.23) 展示でのフロアー・トーク

2015. 11. 21 エディー・クレメンス [ニュージーランド]

Auckland Jean's shop (2015.11.21 - 2015.11.23) 展示でのフロアー・トーク

2015. 11. 21 ワン・シュエン・ワ・エリー [中国]

(un) seen (2015.11.21 - 2015.11.26) 展示でのフロアー・トーク



## 滞在者のトーク他

2015.04.04 - 2015. 04.18      Ari Saarto 一家滞在  
Yumiko Chiba Associats にて展示&トーク

2015.07.02 - 2015.07.10      ジュリア・ランカスター    文    Y

ジュリア・ランカスターは、アクメ・スタジオズのレジデンシー&プロジェクト・マネージャとして長年活動しています。今回 Y-AIR 構想の一環として行われているロンドンと東京の交換プログラムのディスカッションとアクメ・スタジオズのプレゼンテーションのため招へいされました

2015.07.15 - 2015.07.21      ルイーザ・ミンキン    文    Y

Y-AIR 構想の調査と会議 参加のため滞在。  
(CSM/ 美術コースのコースリーダー)



## ライブ・パフォーマンス

2015.01.30 小松正史・野村雅美    Play With Stuttgart と題した小松正史・野村雅美 Collaboration Live を開催。

2015.02.18 ピアニスト新井陽子によるスペシャル・コラボ・コンサートを開催

2015.02.18 - 2015.03.01    ジェイ・コムダ [ポーランド] の展示    No Purpose にて    文

2015.04.11-12 Jun O 武蔵野美術大学学生有志    コラボレーションパフォーマンス    文

2015.05.17 - ミレル・ワグナー [フィンランド]  
Mirel Wagner Live Acoustic Concert

2015.08.05 Louisa Marxen    パフォーマンス [ルクセンブルグ]    文

2015.12.03    ミハヤル・ツァーブ    池田哲    コラボレーションライブ    文    E

2015.12.20    ミハヤル・ツァーブ    池田哲    新井陽子    コラボレーションライブ    文    E



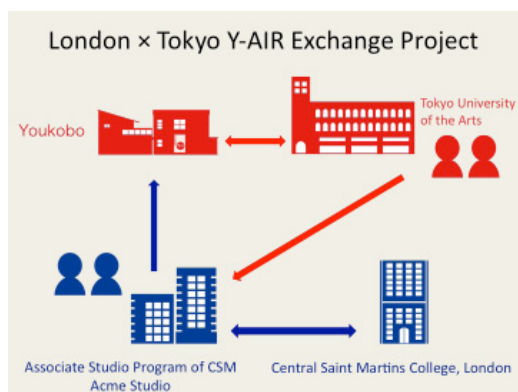
## 2 関連活動

遊工房アートスペースアートスペースは、AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一つの要素となり、また、AIR が社会において大切な役割を持つ存在となることを目指しています。主として海外からの滞在制作活動を希望するアーティストへの機会と場の提供を行ってきた AIR 活動を基本に、関連する活動として、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えて、海外での活動機会の創出として、類似の海外 AIR との交換プログラムの推進、さらに AIR 運営の実際を体験するインターンシップを通じた人材育成など積極的に推進しています。また、国内外の AIR プログラム及び施設に関する資料や情報を収集し、調査・研究すると共に、情報の公開に努めています。国際的な AIR ネットワーク機関 Res Artis（本部オランダ）への加盟、また、日本国内の AIR をつなぐ試みである J-AIR ネットワーク会議への参画など積極的に参画しています。遊工房アートスペース滞在アーティスト、来訪する美術関係者や、地域の人々が交流できる場、「ラウンジ」を設け、コミュニティや他の組織とのネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストの個性と多様性を認め、国内外との交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図ります。

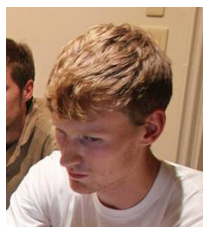
### 2-1 AIR 相互交換プログラム

AIR 体験機会、AIR 相互訪問などから生まれたアーティスト・研究者の相互交換プログラム

#### 新規 ・ London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 文 Y M



2015 年から始めた London と東京の間での交換プログラム。London 芸術大学・CSM 校× Acme Studios で 2013 年より始まった若手作家支援プログラム ASP (Associate Studio Program) と東京藝大油画第 7 研究室×遊工房アートスペースによる Y-AIR の相互交換プログラム。5 月～7 月の 3 か月、日本側から、東山詩織と小津航が、UK 側からは、Lydia Davies と Chris Ifould がそれぞれ 6 週間ずつ同時期 Studio と滞り場所の相互交換（スワッピング）をして滞在制作、調査研究をした。



1 弾：2015.05.01-06.12

Lydia Davies (遊工房アートスペースアートスペース) ⇄ 東山詩織 (ASP プログラム)

2 弾：2015.06.13-07.24

Chris Ifould (遊工房アートスペースアートスペース) ⇄ 小津航 (ASP プログラム)

・欧州文化首都 2017 年パフォス・キプロス、2018 年のヴァレッタ・マルタとの AIR プログラム交換を調整中。

#### 継続 ・ チェコ・Pilsen 市 OPEN AiR との Exchange Program (2014 年開始) 文 E

OPEN AiR と遊工房アートスペースの AIR 交流プログラムの 2 年目、欧州文化首都 2015 の機会に相互交換が実現した。Pilsen からミハヤル・ツァーブが、日本から三原聡一郎がそれぞれ 3 か月間の滞在制作・発表をした。ミハヤルは滞在期間中に女子美術大学、電気通信大学、多摩美術大学での講演やワークショップを実施した。

2015.06.07-09.21 三原聡一郎 (OPEN A.i.R.)

2015.10.14.-12.31 ミハヤル・ツァーブ (遊工房アートスペースアートスペース)



・スロバキア・Kosice 市 KAIR との相互交換は 2016 年に延期。

## 2-2 派遣プログラム

国内アーティストの海外滞在制作・発表の場と機会の創出とその実践

**新規** ・スペイン・サンセバスティアン市 AIR（欧州文化首都 2016）、米国・Sausalito 市 VardaAIR からの Director 来訪。

**継続** ・ArtCamp（2013 年より開始） **Y E**

チェコ・Pilsen 市にある西ボヘミア大学の Art Camp への若者の派遣を始めて 3 年目に当たる本年は、5 大学（東京藝術大学、女子美術大学、武蔵野美術大学、東京造形大学、埼玉大学）から 1 名ずつ計 5 名の学生と、初めて日本から Camp への講師派遣が実現。アーティストの町田久美氏は Japanese Ink Drawing のコースを担当した。また、Camp 運営実習として、遊工房アートスペースから辻真木子を Camp 会期含め前後の 1 ヶ月間インターンとして派遣した。

2015.07.11-08.02 王木易（東京藝術大学）、荒木真弥（埼玉大学）、千葉敏子（東京造形大学）、八木恵理（武蔵野美術大学）、庄野萌（女子美術大学）  
2015.07.25-07.31 町田久美  
2015.07.08-08.06 辻真木子



## 2-3 ネットワーク活動

国内外 AIR 機関、関連活動支援機関との交流、情報交換、具体化検討などの活動状況  
(年間時系列活動は以下表参照)

### ①国際グループ（マイクロレジデンス・ネットワーク、ResArtis 他） **M**

**新規** ・Asia New Zealand Foundation との継続受入開始

Asia New Zealand が公募・助成する New Zealand アーティストの受入。

・Finland Writers Union（フィンランド作家協会）

フィンランドセンター（東京）の仲介を得て、定期的受入。2016 年開始（3 か月間／年予定）

・ECOC2018 ヴアレッタ（マルタ）との交流、アーティスト相互交換の展望を計画中。

・Mapping Residencies（スペイン・Madrid 市）に参加（初の AIR の Mapping マガジン）

**継続** ・ルクセンブルク大使館を窓口ルクセンブルグ文化省が公募・助成するアーティストの受入。（2013 年開始）

・Asia Link（オーストラリア・メルボルン・VCA）が公募・助成するアーティストの受入。（2006 年開始）

・Res Artis・AIR 運営者ネットワークの国際活動（2000 年より正会員、2017 年～2014 年理事、副代表）

・Trans Artists・AIR データベース維持管理の国際規模の活動（2000 年より参加）

・Microresidence Network・マイクロレジデンスの仲間の集いセンター（2012 年開始、遊工房から世界に発信）

### ②国内グループ（ANJ（旧 AIR ネットワーク準備室、J-AIR ネットワークほか） **M**

**継続** ・ANJ（AIR Network Japan）

11 月設立総会開催、正式に発足（旧 AIR ネットワーク準備室とアート NPO リンク内で活動）

・J-AIR ネットワーク

12 月久々の研究会再開（ノルウェイ大使館にて）

・Move Art Japan

・さいたまトリエンナーレ実行委員会

さいたまトリエンナーレ 2016 のイベントとしてマイクロレジデンス・ネットワークフォーラム 2015 を実施

## 2-4 人財育成

AIR の運営にかかわる人材、AIR の普及など様々な切り口で活躍する人材のためのインターンシップ・プログラムへの受入と派遣を実施。

### ①美術系学生インターンシッププログラム Y

東京藝術大学

2015.05.01-07.28 赤池龍星（油画第7研究室、OJUN 教授）

### ②遊工房アートスペース・スタッフインターン派遣

2015.07.08-08.06 辻真木子（派遣先：西ボヘミア大学 ArtCamp 運営事務局）

### ③ GIP, Global Internship Program

AIR や展覧会運営に関する実務経験を通しての研修制度（2005 年に開始、2016 年より再開計画中）



## 3 調査・研究

### 3-1 Y-AIR 構想 Y

Y-AIR 構想の実現と普及を図るための調査と研究

#### ①事例調査研究と成果記録の発行、公開

事例として海外 2 件、遊工房 3 件、国内 9 件、合計 14 件をまとめ事例集として発行準備。（2015/3 発行予定）  
継続して調査研究を進める。

### 3-2 AIR 調査研究 M

世界中に存在する多様な AIR の実態と、その中に在るマイクロレジデンスの顕在化を主眼に調査研究。

#### ①マイクロレジデンス・ネットワークの推進

ネットワークの Web 維持管理を中心に推進

[www.microresidence.net](http://www.microresidence.net) 2015/1 リニューアル更新



Microresidence.net

#### ②マイクロレジデンス寺子屋（2010 年より開始）

事例研究の機会として寺子屋を都度開催、Web を通して情報公開も実施

招へい研究者、滞在作家他、都度のテーマで公開講演会兼研修会として開催している。

#### ③「AIRs ーほんとうの話」（2015 年より開始）

AIR 体験者の生の話から、多様な AIR プログラムの実態を知ると共に、AIR 普及などを旨とするプログラム。

対話記録は、遊工房 Web から発信。

### 3-3 大学等での講義等 Y

#### 武蔵野美術大学 「アート&コミュニケーション」

2015.04.23 シルビア・ペレイラ  
2015.05.28 ヤーッコ・マッティラ

#### 東京藝術大学 集中講義「此の人の声、応答せよ。vol.20 太郎かアリスの海外滞在制作・レジデンダンス」

2015.07.17 村田達彦・村田弘子、クリス・アイフォルド、東山詩織（London/Tokyo2015 参加作家） 講演

#### 女子美術大学 「アートコミュニケーション演習」

2015.12.01 ミハエル・ツァーブ [About instruments - 道具について] 講演  
2015.12.14-19 ミハエル・ツァーブ [4日間でこんなティーセットが描けるようになってっやう!? オープンソフト Blender の基礎をマスターしよう!] WS

#### 電気通信大学 グローバル人材育成セミナー「アートによる国際交流」の夕べ

2015.10.27 村田達彦、ミハエル・ツァーブ 講演

#### 多摩美術大学 「特別講義」

2015.12 ミハエル・ツァーブ 講演

#### 西ボヘミア大学「Pechakucha Night at ArtCamp」(プルゼニ, チェコ)

2015.07.21 辻真木子 プレゼン 「Artist in Residence とは? AIR for Young の取り組み」  
2015.07.28 町田久美 プレゼン 「活動紹介」



### 3-4 AIR プログラムのアーカイブ整備と閲覧、コンサルタント M

(類似 AIR プログラム・マイクロレジデンスの顕在化、AIR 利用と AIR 設立の支援など)

遊工房では、AIR に興味があるアーティストや研究者など多くの方々に活用していただけるよう、AIR プログラムなど関連資料の充実を心がけている。アーティストからの AIR 滞在体験情報や募集情報の持ち込みも行っている。また、AIR プログラムの調査・研究を通し、AIR の一部である「マイクロレジデンス」の存在の顕在化する活動も進めている。アーティストから、また、社会から広く知られ、その活動の意義が広く社会に浸透することを願っている。これまで収集した資料・調査・研究成果は閲覧可能である。



さいたまトリエンナーレ 2016 プレイベント

# マイクロレジデンス・ネットワークフォーラム 2015

会場：国際交流基金日本語国際センター、岩槻駅東口コミュニティーセンター

日程：11月22日：全体会、23日：分科会&オプションツアー、

※継続して参加マイクロレジデンスの発表者有志が集まり、24日：マイクロレジデンス寺子屋を遊工房アートスペースで開催。

11月22日

全体会

・ **基調講演「アーティスト・モビリティと文化外交におけるマイクロレジデンスの意義、役割」**  
マリオ A. カロ (Res Artis 理事、前代表)

・ **プレゼンテーション & ディスカッション**

「世界の AIR、多様なネットワーキング、文化交流のかたち」

Case1 Microresidence Network とは～活動事例と今後の展開 村田達彦 マイクロレジデンスネットワーク、遊工房アートスペース

Case2 HomeBace Project アートと社会をつなぐノマド型国際 AIR アナットリトウィン (HB Project 創設者、アーティスト)

Case3 パフォーミングアーツにおける AIR の可能性 丸岡ひろみ (国際舞台芸術交流センター理事長、TPAM 事務局長)

11月23日

分科会

・ **Session 1 世界の多様な AIR から～マイクロレジデンスの魅力と可能性**

発表者：エイ・コー (New Zero A→Space/ ミャンマー)、ミクリッチ・トノヤン (ACOSS AIR/ アルメニア)、テーホー・ハン (Public AIR/ 韓国)、坂本泉 (AIR/ 山梨)、飯島浩二 (C.AJ AIR/ さいたま)

進行：小田井真美 (Move a→s Japan ディレクター)

・ **Session 2 AIR と教育現場との協働、実践～ ECoC との連携と Y-AIR 構想**

発表者：三原聡一郎 (アーティスト / OPEN AiR)、ミヒャル・ツァーブ (アーティスト / 遊工房アートスペース)、町田久美 (画家「ArtCamp2015」講師)、ArtCamp 参加学生：荒田真弥 (埼玉大学石上城行研究室・M2)、庄野萌 (女子美術大学アート・デザイン表現学科日沼研・B3)

王木易 (東京藝術大学 O Jun 研究室・M2)、八木恵梨 (武蔵野美術大学長沢秀之研究室・B4)、千葉敏子 (東京造形大学生嶋順理研究室・M2)

進行：辻真木子 (遊工房アートスペース)

・ **Session 3 地域と AIR ～文化の継承、地域資源、社会・市民・アートをつなぐ場づくり**

発表者：アナット・リトウィン (HB Project)、萩原さとみ (ファーム・インさぎ山 / さいたま)、三上清仁 (AIR Onomichi / 広島) 森純平 (PARADISE AIR / 千葉)

進行：菅野幸子 (国際交流基金コミュニケーションセンタープログラム・コーディネーター)

・ **総括 Life × Community × Art : AIR でつなぐ、デザインする私たちの未来**

発表者：小田井真美、辻真木子、菅野幸子 ◎コメンテーター：マリオ A. カロ、柴田尚 (S-AIR 代表、AIR ネットワーク準備会)

進行：日沼禎子 (さいたまトリエンナーレ 2016 プロジェクトディレクター)



11月24日

寺子屋

「マイクロレジデンス・ネットワークの今後の展開、展望」 会場：遊工房アートのスペース

Microresidence Network Website の活用、マイクロレジデンス・ネットワーク in アルメニア計画、Y-AIR の取り組みと類似関連活動のシェア、マイクロ・マクロの協働の可能性の事例シェア

参加者：マリオ・カルロ、ミクリッチ・トノヤン、マリ・トノヤン、エイ・コー、テイホー・ハン、本島真由美、イ・ジョンヒョン、日沼禎子、小野瀬裕子、儀保克幸、村田弘子、村田達彦、辻真木子

04 PRE-EVENT

さいたまトリエンナーレ2016 プレイベント  
マイクロレジデンス・ネットワークフォーラム 2015

SAITAMA TRIENNALE 2016

# MICRO-RESIDENCE NETWORK FORUM

2015年11月22日(日)・23日(月・祝) 2日間開催

会場：国際交流基金日本語国際センター、岩槻駅東口コミュニティセンター

参加無料 (事前申し込み)

オプションルツアー HomeBase Project SAITAMA 2015 会場

国際的な創作活動の場である「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」の現在を知るため、世界中に広がる「マイクロレジデンス」(小規模で質の高いAIR)をテーマとしたフォーラムを開催します。国内外のAIRディレクター、アーティストを招き、アート、まちづくり、教育などの多分野を横断する活動紹介を行い、さいたま市独自のAIRについて考えるとともに、さらなる国際AIRネットワークの発展をめざします。

HomeBase Project SAITAMA 2015

滞在期間：10月30日(金)ー11月27日(金)  
オープンハウス(公開プログラム)：11月20日(金)ー24日(火)

移動型国際アーティスト・イン・レジデンス「HomeBase Project」を岩槻区・人形の東玉社員寮にて実施します。期間中在名のアーティストによる発表発表「オープンハウス」を開催。併せてご来場下さい。

「参加アーティスト」  
エイリアン・ブリュン Adrian BRUN (オランダ / Agropo (The Netherlands))  
澤 逸典 | Ikuo HAN (日本 / Osaka / Japan)  
成島 浩二 | Koji ISHIDA (日本 / Tokyo / Japan)  
アリソン・ガリス | Alison GARRIS (イギリス / London / Great Britain)  
アナト・リトヴィン | Anat LITVIN (ロシア / イスラエル / USA / Israel)  
三田村 光土星 | Midori MITAMURA (日本 / Japan)

ACCESS 会場案内

国際交流基金日本語国際センター

11月22日(日) 全体会

〒320-0074 埼玉県さいたま市浦和区北郷町6-6-36  
Tel: 048-834-1100  
アクセス: 浦和駅北郷口徒歩10分、北郷駅北郷口徒歩5分

11月23日(月/祝) 分科会&オプションルツアー

岩槻駅東口コミュニティセンター 人形の東玉 社員寮

〒329-0067 埼玉県さいたま市岩槻区北町1-1  
Tel: 048-759-6500  
アクセス: 岩槻駅北町1(西口)徒歩10分、岩槻駅北町1(東口)徒歩10分

〒329-0067 埼玉県さいたま市岩槻区北町3-10-2  
アクセス: 岩槻駅北町3(西口)徒歩10分、岩槻駅北町3(東口)徒歩10分

さいたまトリエンナーレ2016とは

126万人が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の場をつくりだすことを目指す国際芸術祭。テーマは「未来の発見」。アートを鑑賞するだけでなく、共に作る。参加する芸術祭です。まちの成り立ちや知られざる自然、土地の歴史など、生活圏市ならではの魅力が見える。市内のさまざまな場が会場となり、国内外のアーティストたちが発見する。多様で多岐にわたる市民の皆さん、観客の皆さんとともに、自分たちのこれからの未来を発見していきます。2015年度はプレイベントとして、本年となる2016年に集めるプロジェクトを市内各所で展開します。

SAITAMA TRIENNALE 2016  
さいたまトリエンナーレ 2016

2016年9月24日[土]-12月11日[日]

http://saitamatriennale.jp/



## <関連活動・調査研究 時系列活動記録>

- 2015.01.04 AIRY10 周年記念フォーラム@山梨県民ホール& AIRY **M**  
AIR ネットワークの展望を講演
- 2015.01.22 Y-AIR London/Tokyo Exchange Project 覚書確認会@帝国ホテル **Y M**  
Mark & Graham、OJUN、参加日本側作家（小津、東山）、村田
- 2015.01.31 AIR フォーラム「アーティスト・イン・レジデンスの実践と評価」@ 京都芸術センター **M**  
Res Artis 会長マリオ・カロ氏を迎え、AIR の意義やネットワーキングについて議論。
- 2015.02.11 A.S.K. 祭 「アーツさいたま・きたまちフェスタ 2015」 **M**  
「さいたま×アート」をテーマにパネリストディスカッション。
- 2015.02.19 ECoC AIR ネットワーク (PechaKucha Night @スーパー・デラックス) **M E**  
欧州文化首都の各都市代表者等に向けて AIR の取り組み、ネットワークを発表。
- 2015.03.22 群馬アートシーン群馬美、渋川市美 **M**  
アーツ前橋訪問、交流ほか
- 2015.04.29 AIRY 10 周年クロストーク「AIR の息吹」- AIR は社会とどのようにつながり、何を与えることができるのか **M**  
AIR ネットワークとマイクロレジデンスの講演
- 2015.05.22 山梨県北杜市 AIR 「Chema du Bonheur」訪問 **M**  
マイクロレジデンス・北杜 AIR 滞在作家交えた交流会
- 2015.06.06 「AIRs -ほんとうの話」 **Y M**  
London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2015、初代参加作家（東山詩織）との現地 London 滞在中の場 Acme Studio との対話 (skype にて)
- 2015.07.04 寺子屋@遊工房、London ケーススタディ **Y M**  
Acme Studios のプロジェクトマネージャーよりロンドンのスタジオ事情の講演。
- 2015.08.05 寺子屋@遊工房、韓国ケーススタディ **Y M**  
PublicAIR( 清州 ) 代表、南ソウル大学教員より、地域に根差した AIR 活動、美大の取組など講演
- 2015.09.15 「AIRs -ほんとうの話」 **Y M E**  
チェコ・Pilsen AIR (OPEN A.i.R.) との交換プログラム派遣作家（三原聡一郎）との現地滞在中の場 (DEPO) との対話 (skype にて)
- 2015.10.09 寺子屋@遊工房、Finland ケーススタディ **M**  
Kulttuurikauppila・Art Break (Finland,li 市)、「精神の北へ」(福島) の各代表、フィンランドセンター (東京) Director 交え、展開中のプログラム確認と今後の交流プログラム展開について議論。
- 2015.10.31 「Home Base さいたま」キックオフ Meeting **M**  
Anat Litwin 主宰の移動型マイクロレジデンス、「Home Base さいたま」開所式参加交流
- 2015.11.22 Microresidece Network Forum in さいたま・全体会 **M**  
世界中に広がる「マイクロレジデンス」をテーマとしたフォーラムを開催。  
Microresidence Network とは - 活動事例と今後の展開について
- 2015.11.23 Microresidece Network Forum in さいたま・分科会 **Y M E**  
AIR と教育現場との共同、実践～ ECoC との連携と Y-AIR 構想について辻が登壇。  
欧州文化首都 Pilsen とのエクステンジブプログラムと ArtCamp の体験者による報告。
- 2015.11.24 Microresidece Network Forum 寺子屋@遊工房 **M**  
国内外のマイクロ AIR ディレクター等と情報発信の在り方や次回アルメニアでのフォーラム開催の検討。



2015.02.11 A.S.K. 祭  
「アーツさいたま・きたまちフェスタ 2015」



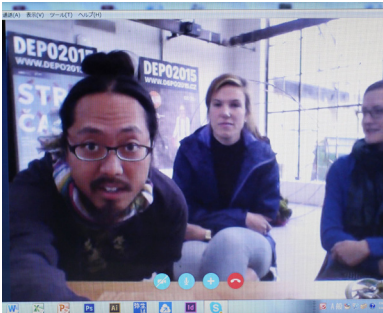
2015.02.19  
ECoC AIR ネットワーク  
PechaKucha Night @スーパー・デラックス



2015. 07.04  
寺子屋 @ 遊工房、London ケーススタディ



2015.08.05  
寺子屋@遊工房、韓国ケーススタディ



2015.09.15  
「AIRs -ほんとうの話」



2015.10.09  
寺子屋@遊工房、Finland ケーススタディ



2015.10.31  
「Home Base さいたま」キックオフ Meeting



2015.11.23  
Microresidece Network Forum in さいたま・分科会



2015.11.22  
Microresidece Network Forum in さいたま・全体会



2015.11.24  
Microresidece Network Forum 寺子屋@遊工房

## 4 地域活動、コミュニティアート

### 4-1 アートキッズ

「アートキッズ」とは子供を対象に、遊工房アートスペースの隣にある桃井第四小学校で行われる斬新なアートワークショップである。15年目を迎え、これまで多数のアーティストたちの指導により展開してきたこの活動は、参加した児童が創造的な可能性をより広げる機会を与えている。2015年は、日本で活動中の英国出身のアーティスト、ジェイミ・ハンフリーズを中心に、様々なワークショップの企画が行った。去年と引き続き、女子美術大学の学生による企画「遊びアンテナ」という光で遊ぶを軸にしたワークショップが展開してきた。その他のワークショップでは、遊工房アートスペースの滞在作家、Noriko Nakamuraによるフェルトを使ったワークショップや、様々なテーマと素材で展開したプログラムがありました。

06.20 - 垂らす、滲ませる、はね飛ばす！

19.19 - フェルト・ワークショップ（遊工房の滞在作家、Noriko Nakamura）

10.10 - オリジナル眼鏡を作ろう！

11.07 - 遊びアンテナ（女子美大学の学生ユニット）





## • 2015 年活動一覽 – Overview

Year	Month		Building 1		Building 2			Network, Exchange				Community	Intern	
			Gallery Program (AIR-G)	AIR-B (S2)	AIR-A		R2/AIR-C)	国内	海外					
					R1	S1			London	Czech	他			
2014	Dec.	5		Chris Bennie (ASIALINK)	Boris Silka (KAIR)						Korea	artkiz		
		10												
		15												
		20												
		25												
2015	Jan.	5		Silvia Pereira (Portugal)	Sheri Simons (USA)	Jay Komuda (Poland)								
		10												
		15												
		20	1.7 - 1.25 桑山企画展											
		25												
	Feb.	5												
		10												
		15	2.18 - 3.1 Jay Komuda - Exhibition											
		20												
		25												
	March.	5												
		10												
		15	3.4 - 3.29 「クレーター vol.2」 企画展 (安田さん)											
		20												
		25												
April.	5		Lydia Davies 5.1 - 6.12	Jaakko Mattila (Finland)	Ari (Finland) 4/2~17							春トロ		
	10													
	15													
	20	Chloe & 百瀬展 4.22 - 4.26												
	25													
May.	5													
	10													
	15													
	20													
	25													
June	5	太郎かアリスの Liquid 5/1~7・12	Chris Ifould 6.12 - 7.24	Yanhong Chong (Singapore)	Julia	藝大 7研	藝大 7研	小津航					Artkiz	藝大
	10													
	15													
	20													
	25													
July	5													
	10													
	15	One Box & One Piece 7/17~24												
	20													
	25													
Aug.	5	真由美&Park展 (韓国) 8/3~9	Flora Mar (Luxembourg)	南ソウル大 8/3~9										
	10													
	15													
	20													
	25													
Sep.	5		AIR-G * Britt Salt (Australia)	Noriko Nakamura (Australia)	* Britt Salt (Australia)								Artkiz	
	10													
	15													
	20													
	25													
Oct.	5		AIR-G * Elly Wan HK	Michal Cab (Czech)	Eddie Clemens (NZ)	* Elly Wan HK							Artkiz	
	10													
	15													
	20													
	25													
Nov.	5		Adam + Keiko 展覧会 9-20										Artkiz	トロールの森
	10													
	15													
	20													
	25													
Dec.	5													
	10													
	15													
	20													
	25													

## ・索引：出版物、掲載記事など

### 1. 出版物

#### ISBN 登録書籍

- ・『In this point of view』 Dunhill and O'Brien 978-4-9908274-0-3
- ・『JAAKKO MATTILA』 Jaakko Mattila 978-4-9908274-1-0

#### カタログ

- ・ MICRORESIDENCE! 2014 若手作家への機会としてのアーティスト・イン・レジデンス (AIR) とは  
— Y-AIR の可能性、London との試み
- ・ MICRORESIDENCE! 2014 若手作家への機会としてのアーティスト・イン・レジデンス (AIR) とは  
— Y-AIR の可能性、欧州文化首都 2015 Pilsen との試み

#### 冊子

- ・ Toyko × Kosice 2013/2014 日本と欧州文化首都のアーティスト・イン・レジデンス (AIR) を通じた交流 Part3

### 2. 動画記録

- ・ Micro and Macro Collaboration Cooperation Between AIR and Art Universities  
Y-AIR を考える 2014 チェコ共和国ブルゼニ市の ArtCamp 参加から

### 3. AIR・展覧会カタログ、案内状など

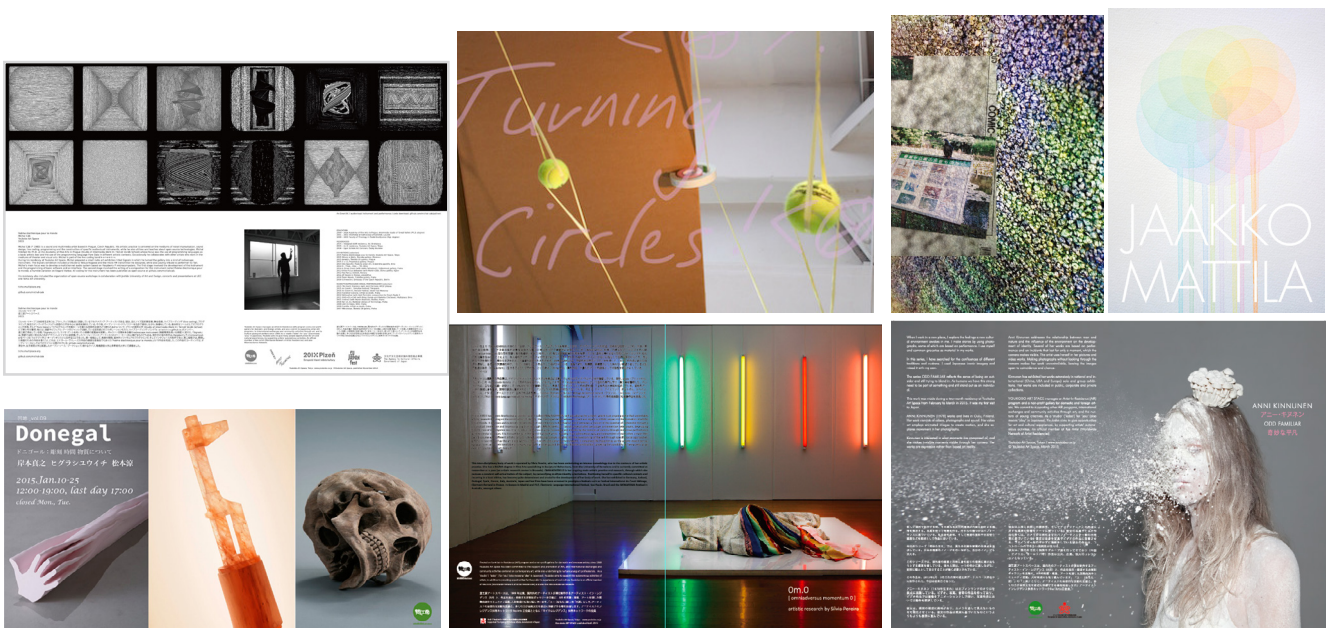
会期	イベントタイトル/アーティスト	内容
2015.01.07 - 2015.01.25	桑山彰彦 (企画)、岸本真之、ヒグラシユウイチ、松本涼 [日本] 第9回凹地企画展 「ドニゴール：彫刻、時間、物質について」	DM
2015.01.30	Sheri Simons [アメリカ] 『Open Studio by Sheri Simons(USA)』	フライヤー
2015.01.30 - 2015.02.01	Darr Tah Lei [アイスランド]	DM
2015.02.18 - 2015.03.01	ジェイ・コムダ [ポーランド] No Purpose	DM、写真集
2015.03.11 - 2015.03.29	安田豊 [日本] 第10回凹地企画展 「安田豊個展 すべてyとyとyのせいだ。」	DM
2015.03.14 - 2015.03.29	アニー・キヌネン [フィンランド] ODD FAMILIAR 奇妙な平凡	カタログ
2015.04.22 - 2015.04.26	百瀬陽子   クロエ・ジャフェ [日本・フランス] Meeting Tree	DM
2015.04.11 - 2015.04.12	Jun O 巡桜 [日本] Tukap	DM
2015.04.24 - 2015.04.26	シルビア・ペレイラ [ポルトガル] 0m.0[omniadversus momentum 0] artistic research by Silvia Pereira	DM、カタログ
2015.06.17 - 2015.06.28	ヤーッコ・マッティラ [フィンランド] MADE IN JAPAN	DM、作品集
2015.06.03 - 2015.06.07	リディア・デイヴィス [イギリス] 'SO_SO'	DM
2015.05.01 - 2015.07.12	「太郎かアリスの liquid」 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画第7研究室展 vol.6	フライヤー
2015.07.08 - 2015.07.12	クリス・アイフォールド [英国] Turning Circles 旋回圏	DM
2015.07.17 - 2015.07.24	「太郎かアリス One Box and One Piece」 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 油画第7研究室展	フライヤー



2015.07.18 - 2015.07.19	ヤンホン・チョン [シンガポール] オープン・スタジオ	DM
2015.08.05 - 2015.08.09	ソンヨンパク 本島真由美 [韓国 日本] Public Air-Tokyo Exhibition	フライヤー
2015.08.05 - 2015.08.09	サムチルパク フィチャンカン [韓国] The Art Play into the Fantasy	フライヤー
2015.09.09 - 2015.09.12	フローラ・マー Flora Mar [ルクセンブルク] OPEN STUDIO by Flora Mar	DM、カタログ
2015.09.25 - 2015.09.27	ノリコナカムラ [日本 在豪在] In-between	DM
2015.09.25 - 2015.09.27	ブリット・ソルト [オーストラリア] Unknown Complexity	DM
2015.11.21 - 2015.11.26	エリー・ワン   エディー・クレメンス   ミハヤル・ツァーブ トロールの森 at Youkobo Art Space	フライヤー
2015.11.21 - 2015.11.26	ワン・シュエン・ワ・エリー [香港] (un) seen	DM、カタログ
2015.11.21 - 2015.11.23	ミハヤル・ツァーブ [チェコ] シグナルズ - signals	DM
2015.12.11 - 2015.12.20	エディー・クレメンス [ニュージーランド] Auckland Jean's Shop	DM、カタログ
2015.12.11 - 2015.12.20	ミハヤル・ツァーブ [チェコ] Poeme electronique-pourle monde	DM、カタログ
2015.12.09 - 2015.12.20	MIEZARUTE [イギリス   日本] SAYONARA   サヨナラ	DM

#### 4. 掲載記事

- 2015.01.10 東京新聞 「彫刻、時間、物質 テーマに企画展 きょうから杉並で」
- 2015 No70(1月号) 月刊アートコレクターズ 「ドニゴール…岸本真之、ヒグラシユウイチ、松本涼 彫刻、時間、物質について」
- 2015 gallery ギャラリー 1月号 「ドニゴール…岸本真之、ヒグラシユウイチ、松本涼 彫刻、時間、物質について」
- 2015.11.02 東京新聞 トロールの森 2015 広告
- 2015.11.21 東京新聞 「まちと公園 彩るアート」







文化庁文化芸術の海外発信拠点事業  
The Agency for Cultural Affairs,  
Government of Japan



# Microresidence Network



: Double agents



遊工房アートスペース 年間報告 2015

編集：遊工房アートスペース

〒 167-0041 東京都杉並区善福寺 3-2-10

TEL/FAX: 03-3399-7549

E-mail: [info@youkobo.co.jp](mailto:info@youkobo.co.jp)

URL: <http://www.youkobo.co.jp>

2016年3月発行